

序

住用村教育委員会に実習場を世話していただいた。村教委は調査の目的を、村史に対する村民の認識の深化、遺跡保護の方法の模索、社会教育資料の整備、などに置いておられる。そのために調査を頼むとのことだったが、お役に立ったと云うよりお世話になった量の方がはるかに大きかったようだ。教育長石原和真氏はじめ要路の方々、地主坂本令氏はじめ地元の皆様方に心から御礼を申しあげたい。

この遺跡については私が予備調査した。その際はセメトリの可能性が極めて強いと判断された。ボーリングで石組の列が探知され、ステッキの先に骨片が付着したのだから——。九州大学の永井教授に中橋孝博・田中良之両助手の派遣を乞うたのもそのためである。例年通り加勢に駆けつけてくれた木下尚子氏と共に学生を指導して下さった。謝辞を記す次第である。

さて実習の評価であるが、云々するのに少々気が重い。と云うのも、みんなまじめに参加したのだが、期待通りの実習量に届かなかった。小さな局面に対してすら自分で判断を下せないこと、仕事のスピードの甚だしく低いこと、の二点が直接の原因のようであった。どちらも講義の聞きっ放しが重なった結果であろう。早急に反復履習して調査力・学力の補充に当てられたい。

なおこの実習発掘は院生たちにも米倉君にも事情があつて、四年次生の西谷大君が甲元助教授の指示のもとに全般をとりまとめた。異例であるので、記して労恤に代えたい。

1984年3月15日

白木原和美

例 言

- 本書は鹿児島県大島郡住用村所在のサモト遺跡の発掘調査報告である。
- 本書の編集は主として西谷 大が行い、執筆者は各文末に示した。
- 石材の鑑定は熊本大学教養部地学教室高橋俊正教授にお願いした。
- 発掘調査は1983年7月12日に開始され、7月20日に終了した。

調査参加者

白木原和美 甲元真之

西谷 大（4年次生） 井上信之 岡本直久 神宮美保

平 俊隆 友口恵子 林田奈生子 藤崎伸子 三山 茂

吉武牧子 吉永義治（以上3年次生）

田中由美 徳永貞紹 永淵昭子 西島良美 野尾晴一郎

村上恭通 村田京子 高田浩善（以上2年次生）

調査協力者

田中良之 中橋孝博 木下尚子

本文目次

一 遺跡の位置と環境	1
二 調査の概要	
1 調査の経過	4
2 層 序	4
3 遺 構	6
三 出土遺物	
1 土 器	16
2 石 器	25
四 まとめ	31